

涼むために冷蔵庫を開けないことを教えるには？

まだ残暑厳し地方に住む親御さんからの残暑見舞いのメールに、支援校の低学年に通う自閉症のお子さんの近況に触れた次のような一文がありました。

【 ちょっと目を離すと扇風機のボタンを必ず強にして、エアコンのスイッチを入れて、それでも物足りないのか冷凍庫の引出しをあけて涼むので、スイッチを切ったり、冷凍庫を閉めたりと格闘しています（笑） 】

我々として暑いと扇風機やエアコンをつけ、また、いつ時冷凍庫を開けて涼むこともありますよね。

このお子さんも、自然の摂理に応じる行動をしているに過ぎないと思いますが、涼むために冷凍庫を頻回に開けるとなると、やはり親としては気になるでしょうね。

恐らく自閉症児を養育している親は、日々の生活のあらゆる場面でこうした格闘をしているのでしょうね。

親御さんからのメールは残暑見舞いでお子さんのことでの相談ではありませんが、ふとどう教えればいいのかと気になった。

つまり、理屈や説明だけではなかなか分かってもらえないような障害状況の子どもの場合、目的ある行動のためには手段として OK なことと NO のことがあることを、どう教え導くかということ。

子どもが主体的に行動をしようとしている状況時こそが、最も効果ある指導（育児、保育、教育）が出来ると云われています。

例えば、このメールにあったように自閉症児が涼むために扇風機、エアコンの操作はよしとしても、冷蔵庫だけはせめて開けないようになってもらうために、この状況を指導場面として活かして、どういった具体的な教え方、係わり方があるのでしょうか。

また、支援学校等では日常の生活に活かせる行動を獲得させる教育活動を行っていると思うだけに、こういった状況を想定してどういった指導があるのでしょうか。

みなさんの体験、経験からヒントになりそうなことがありましたら、参考までにお聞かせください。